（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（松本地域）

令和７年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	松本と鹿児島をつなぐ特攻から考える平和学習
事業主体 （連絡先）	一般社団法人　松本青年会議所 （TEL：0263-32-7646）
事業区分	(3) 教育及び文化の振興に関する事業 (1) 地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	11,058,258 円（うち支援金：5,000,000 円）

事 業 内 容

松本圏域の若い世代（高校生・大学生をメインターゲット）に対して、3 つのフェーズに分けた特攻に対象を絞った平和学習機会を提供しました。まず、事前に特攻という悲劇を生み出すまでにいたった戦争の歴史的な経緯、および戦下での国家・市民の混乱について、専門家から学んでいます。そして、鹿児島知覧までチャーター便でまつもと空港から出発し、現地学習で実際の訓練・生活、さらには隊員や家族の悲しみ・葛藤等について学びました。事前・現地での学びを、多くの市民に共有するため、成果報告として市民の方々に共有する機会を設けることを最終フェーズとして実施しました。

事 業 効 果

①地域の若者 42 名が松本では体験できない平和学習の機会を得ることができました（目標：50 名）。
②現地の観光ガイドとのグループワークで意見交換の時間を設けたことで、エリアや世代を超えて戦争に対する考えや意見を共有することができました。
③最終報告会で 8 名が登壇したほか、運営メンバを除く 67 名のレポートを HP で公開しています（報告会参加者 135 名（目標：200 名））。
④平和学習の行き先を広げる施策として、まつもと空港を利用した手法を提案・実践しています

【目標・ねらい】

①若者に平和学習の機会を提供
②多様な考えを共有する
③発信の意識を備える
④平和学習に空港を活用

※自己評価【A】

【理由】現地学習で、現地ガイドや語り部役を務める方々と交流をした若者たちが、自身の高校や母校の小学校で学びの成果を発表する場を設けることができており、事業効果が面的な広がりを持っているため。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。（今後の事業展開、取組の継続に向けた財源確保など）。

当会議所では平和学習を含めて、地域の若者が他地域と学び・交流する機会を継続的に提供していき、多様な気づきを得ていただくことを期待します。本事業で、まつもと空港を活用することで、若者たちの新たな発想や着眼が得られる遠隔地に比較的低い制約条件で短時間で訪問することができたため、継続して空港を活用した新たな学習環境・機会の提供可能性を模索しています。特にチャーター便の数が増えていくことで、将来の定期便就航の可能性もありえるため、来年度以降も継続した取り組みが必要だと考えられます。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた　「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある